

# 令和元年播種（令和2年産）麦類作況試験生育状況（古川農試）〔4月10日調査結果〕

## 1. 供試品種および耕種概要(10月中旬区・10月下旬区共通) (10月中旬区)

供試品種	早 生	中 生
六条大麦	シュンライ	ミノリムギ
小 麦		シラネコムギ
		夏 黄 金

- ・土づくり肥料等：粒状苦土石灰 6.0 kg/a
- ・排水対策：暗渠および弾丸暗渠  
(ほ場長辺方向 2.5m×ほ場短辺方向 5m 間隔)
- ・ほ場条件：沖積埴壌土 転換初年目(前作水稲)

- ・播種期：10月17日
- ・播種量：0.9 kg/a(ドリル播き, 条間 28 cm)
- ・施肥：尿素燐加安 777 号  
(N : 0.8 kg/a, P205 : 0.8 kg/a, K20 : 0.8 kg/a)  
(10月下旬区)
- ・播種期：10月30日
- ・播種量：1.0 kg/a(ドリル播き, 条間 28 cm)
- ・施肥：(10月中旬区と同じ)

## 2. 気象概況 (表1, 図1)

- ・平均気温は、平年より高温傾向で経過した。
- ・降水量は、3月10日と4月1～2日にまとまった降雨があり多雨となったが、それ以外の期間は平年並～少雨傾向であった。2月5日以降、積雪は記録されていない。
- ・日照時間は、2月中旬～3月上旬が少照、他の期間は、多照傾向で経過した。

表1 気象経過(2月～4月上旬)古川アメダス

	平均気温		積算降水量		積算日照時間	
	本年 (°C)	平年差 (°C)	本年 (mm)	平年比 (%)	本年 (hr)	平年比 (%)
2月上旬	0.4	0.5	2.0	16	51.6	108
2月中旬	4.3	3.8	20.5	118	46.7	92
2月下旬	4.0	2.7	11.0	95	36.8	86
3月上旬	5.5	3.5	44.5	234	33.7	65
3月中旬	5.5	1.9	10.0	44	61.2	106
3月下旬	6.3	1.5	5.5	22	74.7	125
4月上旬	8.2	0.7	38.5	167	68.9	106

注1) 気象庁：古川アメダスデータから引用  
注2) 平年差(比)は古川アメダス平年値データとの比較

## 3. 生育概況

### 1) 4月10日現在の生育状況 (表2)

- ・大麦・小麦ともに、10月中旬区では平年と比較して草丈が長く、茎数は平年の6割程度となった。葉数も平年より+1.1～+2.3枚と多かった。
- ・大麦の10月中旬区で止め葉が抽出するなど、大麦・小麦ともに暖冬の影響で平年より生育ステージが進んでおり、平年同期に比較して茎数の減少が進み、葉数が多くなっている。
- ・10月下旬区の生育量は、10月中旬区と比較して、草丈が67～80%，茎数が104～134%，葉数が80～86%で、10月中旬区の平年同期に近い生育量になっている。

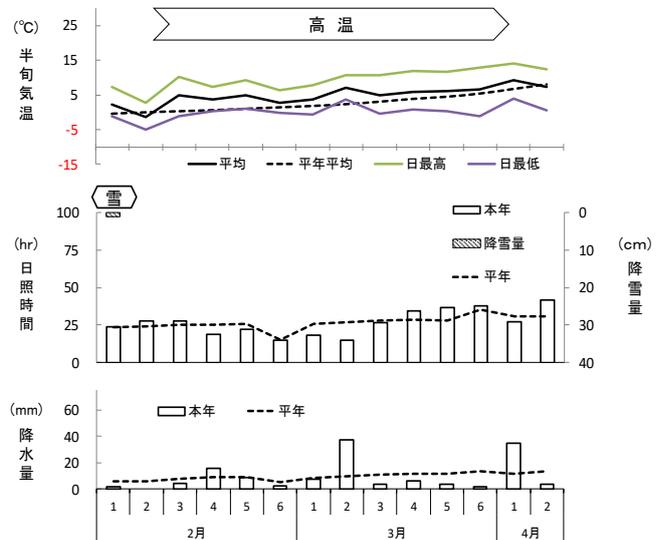


図1 気象経過(2月～4月第2半旬)古川アメダス

### 2) 幼穂分化状況 (表3)

- ・大麦の幼穂長は、10月中旬区は20mmを超え、平年よりかなり長かった。10月下旬区は約10mmで、前年より長かった。
- ・大麦の茎立期は、10月中旬区が平年より14～18日早い3月中旬頃、10月下旬区が3月末頃と推定される。
- ・小麦の幼穂長は、10月中旬区は10mm前後と、平年よりかなり長かった。10月下旬区は約5mmで、前年より長かった。
- ・小麦の茎立期は、10月中旬区が3月下旬頃、10月下旬区が4月上旬頃と推定され、10月中旬区の「シラネコムギ」では、平年より18日早かった。

表2 生育状況（草丈・茎数・葉数）（4月10日現在）

品種	区別	草丈			茎数			葉数			
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	
大 麦	シュンライ	10月中旬区	47.5	241	200	512	41	57	10.6	1.2	1.3
		10月下旬区	31.7	195	-	684	54	-	9.1	1.0	-
小 麦	ミノリムギ	10月中旬区	43.4	190	184	539	42	54	11.5	1.9	2.3
		10月下旬区	30.5	160	-	603	47	-	9.4	0.9	-
小 麦	シラネコムギ	10月中旬区	36.7	121	144	623	54	67	10.1	0.7	1.1
		10月下旬区	29.2	126	-	823	60	-	8.6	0.7	-
大 麦	夏黄金	10月中旬区	37.8	141	-	614	43	-	10.9	1.8	-
		10月下旬区	28.6	167	-	638	48	-	8.7	1.1	-

注1) 10月中旬区の平年比(差)は、平成25年播種を除く過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値との比較。

注2) 10月下旬区は平成29年播種から、「夏黄金」の10月中旬区は平成28年播種から供試のため、平年値(比・差)はない。

表3 生育状況（幼穂長及び幼穂分化程度）（4月10日現在）

品種	区別	幼穂長			幼穂 分化 程度	茎立期			減数分裂期			
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)		本年 (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)	本年(予測値) (月/日)	前年 (月/日)	平年 (月/日)	
大 麦	シュンライ	10月中旬区	27.6	18.8	17.6	X	3/19	3/26	4/2	4/8	4/21	4/21
		10月下旬区	11.1	5.9	-	X	3/27	4/12	-	4/16	4/24	-
小 麦	ミノリムギ	10月中旬区	24.0	15.9	17.4	X	3/18	3/25	4/5	4/11	4/23	4/23
		10月下旬区	9.0	4.7	-	X	3/27	4/12	-	4/19	4/26	-
小 麦	シラネコムギ	10月中旬区	7.1	3.1	3.8	X	3/22	4/5	4/9	4/20	4/28	4/28
		10月下旬区	4.2	1.5	-	X	4/2	4/13	-	4/24	5/1	-
大 麦	夏黄金	10月中旬区	11.7	7.5	-	X	3/26	4/7	-	4/17	4/30	-
		10月下旬区	5.5	3.0	-	X	4/4	4/15	-	4/23	5/2	-

注1) 10月中旬区の平年比(差)は、平成25年播種を除く過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値との比較。

注2) 10月下旬区は平成29年播種から、「夏黄金」の10月中旬区は平成28年播種から供試のため、平年値(比・差)はない。

注3) 茎立期: 主茎長が2cmに達した日。

注4) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。 本年(予測値)は、古川農試麦類生育ステージ予測シート(Ver3.0)を用いた予測値。

〔参考〕麦類の幼穂分化程度と幼穂長 (mm)

区 分	苞分化期		小穂分化期			穎花分化期	
	V	VI	VII	VIII	IX	X	
大麦（シュンライ等）	0.5	0.5~0.7	0.7~1.5	1.5~2.0	2.0~4.0	4.0~5.0	
小麦（シラネコムギ等）	0.5	0.5~0.6	0.6~1.0	1.0~1.2	1.2~4.0	4.0~5.0	

注) 幼穂分化程度はI~Xの10期に区分されるが、V期以前は外部形態による判定が困難であるため省略。

厳密にはVII期は「前・後期」に、IX期は「前・中・後期」に区分される。

令和元年播種（令和2年産）麦類生育調査ほ生育状況〔4月10日調査結果〕

表4 令和元年播種（令和2年産）麦類 生育調査ほ 耕種概要

担当普及 センター	品種	実施場所	畑転換	排水対策	播種期	播種量	条間
			年数	(明渠, 暗渠等)	(月/日)	(kg/a)	(cm)
大河原	シュンライ	大河原町金ヶ瀬	21	暗渠	11/10	0.8	30.0
	ホワイトファイバー	大河原町金ヶ瀬	3	暗渠	11/8	0.8	30.0
仙台	ホワイトファイバー	大和町落合	2	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/18	1.0	30.0
大崎	シラネコムギ	大崎市古川	2	暗渠, 心土破砕	11/1	0.9	15.1
美里	シラネコムギ	大崎市鹿島台	6	明渠	11/18	1.5	25.0
	夏黄金	涌谷町	1	明渠	11/11	1.2	20.0
登米	あおばの恋	登米市豊里町	18	明渠, 暗渠	11/6	1.0	25.0
石巻	シュンライ	石巻市桃生町	1	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/2	1.0	29.5
	ミノムギ	石巻市桃生町	1	本暗渠, 弾丸暗渠, 明渠	11/1	1.0	30.7
	シラネコムギ	石巻市桃生町	1	-	11/9	1.1	23.2

注) 播種様式は「ドリル播き」。

表5 麦類生育調査ほ 生育状況(4月10日現在)

担当普及 センター	品種名	草丈			茎数			幼穂長		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m <sup>2</sup> )	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
大河原	シュンライ	24.7	122	110	365	34	57	17.6	12.1	9.6
	ホワイトファイバー	27.2	-	-	516	-	-	19.1	-	-
仙台	ホワイトファイバー	24.3	99	-	540	70	-	4.2	-0.9	-
大崎	シラネコムギ	23.4	114	120	518	65	54	2.5	0.4	0.0
美里	シラネコムギ	32.8	251	181	1356	138	148	3.8	2.4	2.2
	夏黄金	25.4	126	132	1073	82	116	5.7	3.3	3.9
登米	あおばの恋	42.5	259	228	1223	394	145	11.6	10.3	9.0
石巻	シュンライ	27.2	98	113	703	58	128	5.7	-0.7	-0.8
	ミノムギ	30.3	144	138	463	62	84	5.1	1.2	0.6
	シラネコムギ	22.2	125	105	537	57	50	2.1	0.6	-0.3

注1) 平年値は、過去7か年中の値から、最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 大河原町「ホワイトファイバー」は、令和元年播種から調査のため、前年値(比・差)及び平年値(比・差)はない。

注3) 大和町「ホワイトファイバー」は、平成30年播種から調査のため、平年値(比・差)はない。

注4) 登米市「あおばの恋」は、平成28年播種からほ場変更のため、平年値(比・差)がない。

## <生育状況等に関する担当農業普及センターのコメント>

(注)普及センターのコメントでは、各地域で算出した値と比較していたため、表5の平年比(差)との比較に調整した。

### 大河原「シュンライ」,「ホワイトファイバー」

- ・平均気温は、3月以降も高めに推移した。
  - ・降水量は、3月は平年より少なく、日照時間は平年並だった。
  - ・少雨による追肥の効果不足等から一部で生育量不足が見られる。
- 「シュンライ」(平年比)
- ・草丈は24.7cm(110%)、茎数は365本/m<sup>2</sup>(57%)、幼穂長は平均17.6mmとなっている。
- 「ホワイトファイバー」
- ・生育量は特に茎数が516本/m<sup>2</sup>と「シュンライ」を上回り、幼穂長は平均19.1mmとなっている。

### 仙台「ホワイトファイバー」

- ・平均気温は、高めで推移しており、生育は概ね順調であった。
- ・幼穂長は4.2mmで、前年並であった。
- ・雑草の発生は少ない。

### 大崎「シラネコムギ」

- ・台風第19号の影響による播種期の遅れと白鳥等による食害の影響で、4月10日現在の生育および平年比(差)では、草丈23.4cm(120%)、茎数518本/m<sup>2</sup>(54%)、幼穂長2.5mm(±0.0mm)となっている。

### 美里「シラネコムギ」,「夏黄金」

「シラネコムギ」

- ・幼穂形成始期は3月27日頃、茎立期は4月3日頃と推定される。
- ・平年と比べて、草丈、幼穂長が長い。

「夏黄金」

- ・幼穂形成始期は3月25日頃、茎立期は4月3日頃と推定される。
- ・前年と比べて草丈、幼穂長が長い。
- ・明きよが十分機能しておらず、部分的に下葉が黄化している。

### 登米「あおばの恋」

- ・4月10日頃の幼穂長は11.6mmで、茎立期は3月25日頃と推定された。
- ・ハコベ類やアゼナ類が散見される。

### 石巻「シュンライ」,「ミノリムギ」,「シラネコムギ」

- ・3月は日平均気温が、平年差+2.6℃となり、高温傾向で推移した。日照時間は平年比98%、降水量は平年比86%であった。
- ・高温傾向で推移したため、播種期が遅れたが、生育量は回復傾向を示しているが、「ミノリムギ」,「シラネコムギ」の茎数は平年を下回った。
- ・平年比(差)

「シュンライ」 草丈：27.2cm(113%)、茎数：703本/m<sup>2</sup>(128%)、幼穂長：5.7mm(-0.8mm)

「ミノリムギ」 草丈：30.3cm(138%)、茎数：463本/m<sup>2</sup>(84%)、幼穂長：5.1mm(+0.6mm)

「シラネコムギ」 草丈：22.2cm(105%)、茎数：537本/m<sup>2</sup>(50%)、幼穂長：2.1mm(-0.3mm)